

令和4年度 第3回 藤枝市子ども未来応援会議 議事録【要約】

日時：令和4年10月25日（水）15時～16時15分

場所：藤枝市役所5階大会議室

主催：藤枝市教育委員会教育政策課

子ども未来応援会議は、「教育日本一のまち藤枝」を目指し、次代を担う子供達を健やかに育成するための教育環境の充実を総合的に推進するために組織され、学識経験者や教員、保護者、関係団体など17名の委員で構成されています。

今年度第3回目は、第2期教育振興基本計画案について多面的・包括的に意見・助言をいただきました。

発言者	発言内容等
委員長	<p>【委員長挨拶】</p> <p>今日もご意見をいつものようにいただき、積極的なご発言をよろしくお願ひしたい。</p>
教育部長	<p>【教育部長挨拶】</p> <p>本日はお忙しい中お集まりいただき感謝申し上げます。前回の8月の会議は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、書面開催だったが、現在の感染状況も減少傾向にあり、本日は対面式という形で開催をさせていただいた。</p> <p>社会全体においても、ウィズコロナに向けての政策の転換が進み、感染症拡大防止と社会経済の両立を図る方針に転換している。しかし、学校現場では、まだまだ新型コロナウイルス感染者増加が一部みられるなど、依然として予断を許さない状況である。</p> <p>また、先の台風第15号では、藤枝市でも多くの被害が報告されている。学校でも、一部の学校で土砂の流入とか被害があり、地域の方とか学校の先生方などに協力いただき、何とか緊急的な復旧をした。しかし、まだ土砂が流入している学校もみられるなど、引き続き復旧を進めている。</p> <p>このように予測できない社会状況、環境の変化を目の当たりにして、我々はやはり、子供達がたくましく生きる力というものを育てていかなくてはいけないと思う。さらに、地域と家庭と学校がより強固な連携の必要性、こちらを強く感じているところである。</p> <p>今回の会議では、これまで委員の皆様とともに検討してきた第2期藤枝市教育振興基本計画（教育大綱）の素案がある程度固まってきた。本市の子供達により良い学びの環境をつくることができるよう、皆さんの方から忌憚のないご意見をお願いしたい。</p>
委員長	<p>それでは、議題に入る。先ほど申し上げた第2期藤枝市教育振興基本計画（素案）について事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>それでは、私から第2期藤枝市教育振興基本計画（素案）について、説明をさせていただきます。</p> <p>前回の第1回、それから8月の書面決議の方を含め、皆様からたくさんのご意見を頂戴し、感謝申し上げます。私達にはない視点、色々な角度からのご意見をいただき、素</p>

案の中に反映させることができた。

私の方から、意見等を盛り込んだ点等を説明する。

【資料1 第1章 計画の策定にあたって】

2ページの計画の策定についての部分では、同じような内容が繰り返し表現されていた部分について整理し、計画策定の経緯・位置づけをコンパクトにまとめた。

【資料1 第2章 本市における教育施策の状況】

昨年度行った児童・教員等へのアンケート結果を最初に入れていたが、学校の現状のデータやアンケートの実際の内容については、後ろへ資料編として移動し、現状の分析あるいは現在の課題等を簡潔にまとめた。

【資料1 第3章 本市が目指す教育（教育大綱）】

次に10ページでは、教育大綱として本市の目指す部分（基本理念・目指す姿）を掲載している。委員の皆様から、教育は0歳からもうスタートするというお話があったので、11ページ中ほどの目指す姿のイメージの中段に、言葉として「0歳から始まる生涯にわたる学び」という言葉を入れるとともに、その上に、赤ちゃんからお年寄りまでのいわゆる0歳から生涯にというようなイメージ図を加えた。

【資料1 第4章 本市が目指す教育の実現に向けて】

第4章は、先ほどの教育大綱を実現するために本市が目指していく姿勢等を、盛り込む章とした。その中で、基本姿勢が曖昧だったため、三つの言葉（市民総ぐるみの協働の推進、一人ひとりに寄り添った教育施策の充実、生涯にわたる学びの充実）で明確にさせていただいた。

その隣の17ページに、学校教育における藤枝市が大切にしている考え方ということで、委員の皆様からも話が出た藤枝市の伝統的な取組、「授業で人を育てる」という考え方を掲載している。「実践するために大切にしたい5つの柱」というところに*を入れ、高洲南小学校の取組という形で注釈をつけている。

18ページでは、藤枝市はSDGsという世界的な取組の中で、藤枝市独自に推進する藤枝版ローカルSDGsを掲載し、この教育振興基本計画との関連を掲載している。

【資料1 第5章 政策・施策展開】

20ページから目標等を実現していくための施策、取組などについて掲載している。施策の体系図では、左側が基本理念「豊かな学びで 笑顔をつなぐ」から3つの目標、それを実現するための政策、施策、主な取組という形で見開きになっている。

主な取組の記載について、新規事業には「新」、拡大・拡充する事業には「拡」という白抜き文字を入れている。

主な変更点については以上となる。

委員の皆様からご意見をいただいたものについては、できるだけ反映できるよう修

	<p>正を加えた。事前に配布した資料2に意見への回答がまとめてあるため参照いただければと思う。</p> <p>また、本日のこの会議や、庁内での行政経営会議で審議を経て、12月下旬からパブリックコメントを実施していく。</p>
委員長	<p>手元にある基本計画の案には今までの皆さんから提案した意見が既に反映されているかと思う。今日はこの資料に対して、皆さんのご意見を再度発言していただきたい。</p> <p>また、この会議の後、事務局の方にお電話などでご意見を述べても構わないが、できるだけ今日、最終案となるよう、皆さんの確認のご意見をいただきたい。</p>
委員	<p>範囲がとても広く、自分にはうなずく内容ばかり。特に意見はない。</p>
委員	<p>私は教育関係者ではなく、企業の立場で見させていただく。40ページの施策3の「教職員の能力向上と職場環境の改善」というところに注目したところ、主な取組に「新」がなかった。新しい取組がないのはなぜか。現状のままでいいのか。問題点はなかったのか。改善することはないのか。職員の方々の満足度はどうだったのか。職員の方々の意見の吸い上げはしっかりできていたのか確認したい。</p> <p>労働時間の改善や、大変な親がいたときにそれをしっかり学校全体でサポートできる体制を整えることが、これから大事になる。職場の先生が生き生きとやりがいを持って、若い人達がどんどんこの職を目指していけることが教育の改善に繋がるのではないか。また、安心して働ける環境をつくるのが教育の質の向上につながると思う。</p>
大坪委員長	<p>これからどうやって実行していくかが大切になってくる部分。今までのところで事務局の方で何かコメントがあれば、お願いしたい。</p>
事務局	<p>教員の働き方、教育の労働環境、先生方の労働環境、働き方改革について回答する。参考までに、現場の先生方のデータを見ると、1人当たりの月平均の時間外労働時間は、平成30年が35.1時間、令和元年度が34.2時間、令和2年度はコロナによる休校の影響があり27.4時間、令和3年度が31.5時間。令和4年度、今年度ですが9月までの時点で39.6時間という状況となっている。</p> <p>40ページの主な取組については、拡充・拡大する事業となるため「拡」と表記を追記する。②の学校経営研究事業は、経営研究委員会が年間を通して、4つのチームに分かれて喫緊の課題、教育課題について研究して、それを現場で実践に移していく事業。令和2年度に保護者向けのリーフレットを作り、教員の労働環境を保護者、地域にも知ってもらうために、昨年6月に、全保護者へ、また、回覧板で地域の方にも配布した。これには教員の時間外労働時間の表が入っており、地域の力をお借りしたいというメッセージも込められている。</p> <p>また、昨年には教員が労働環境を変えていくための様々な取組の例を示した業務改革プランを作り各校に配布した。今年度は部活動改革に向けて動いている。先月、小学校4年生から6年生の児童、保護者、中学校1年生から2年生までの生徒、保護者、それから中学校の教員全てにアンケート調査を行った。児童生徒のニーズ、保護者のニーズ、今置かれている環境をまず把握した上で現在分析を進めている。この後、部活動改革に向けてどういった手法で改革をしていくのかという素案を作って取り組んでいく。来年度すぐにとはいかないが、できるところから取り組んでいこうと考えている。</p> <p>本当に教育現場を温かい目で見てくださり、ありがたく思う。今後も、是非ご支</p>

	援、ご協力をお願いしたい。
委員	先月、青少年育成事業として「田中城の池の水抜き」を行った。市内の小学生 70 名を集めて、外来種の駆除をするというテレビ番組でやっているような授業を真似た企画。ほとんどの子供が昔と違って、田んぼで遊んだり、川で遊んだり、池の中に入りっというところをしたことがないということが印象的だった。36 ページの「自然体験活動推進事業」は拡大となっているので、是非推し進めてほしい。それにより、もっと豊かな心の子供が増えるのではないかと思った。
委員	<p>教員の働き方改革に関する取組のことについて、私の子供が学校に通っているが、コロナ禍で休んでいる子がいれば、休んでいる子もオンラインで繋ぎながら授業をやっている。一人一台タブレットの導入など、1人故障したりすると、またそれを直すまで授業が進まないなど先生方が全然楽になっていない、むしろ大変になっているということを感じる。</p> <p>専門家を学校に導入して人員を増やし、トラブルへの対応を先生がやるのではなく、そういうことを任せられるようになるとういと思う。精神的に追い詰められているような先生も多いようなので、その辺を充実できれば、子供ものびのびできるのではないか。人員を増やす、専門家を導入するなど力を入れてほしい。</p>
委員	計画自体は良いと思う。これを実行するにあたり、数値目標で数字が出ており、大きな目標に向かって全体で進んでいくと思うが、文科省の方でも個別最適な学びとか主体的な学び、そういうものを推し進めていく中で、全体が総論OKではなく、個々の成長や事情に応じたサポート、きめ細やかさが重要になってくる。是非これから実践して検証していくときにも、数字に固執してしまったり、全体がよいからよいではなく、個々の児童生徒・住民一人ひとりの方々の学習がそれぞれにも進むようなきめ細やかさを意識してほしいと思っている。
委員	<p>先ほどの意見について、私もその通りだと思う。</p> <p>色々な事業を推進していくにあたり、数値目標はすごく大事だが、一つひとつの質というか、どういう風に変わっていきけるのか、個々の様々な背景に応じたよりきめ細やかな支援というところが必要になってくる。中身の充実というところが大きく、数字だけでは見えない部分になるので、そこを大切に評価できるようになると良いと思う。</p> <p>30 ページの感染症対策の支援のところでは不登校が深刻な問題で、引きこもりの人口が増えると言われている。また、思春期や児童期に不登校だった子の 40%、60%が将来、引きこもりになると言われている。適応指導教室の充実が図られているということと、専属指導員が各中学校に配置されることはとても意味があることだと思うが、同時に各学校に教室に入りたくても入れないような子もいるので、学校で居場所づくりができる、そういう環境整備や人員配置も拡充できるとよいと思う。</p> <p>医療的ケアについても記載があるが、色々な背景を抱えた子供が存在しており、様々なニーズを抱えた子の幅が広がっている。個人に対応し、支援ができるよう事業を拡充していけるとよいと感じた。</p>
委員	私も「きめ細やかな学びの保障の実現」というところで、特別支援教育の子供達にとっても嬉しいなという風に思っている。

	<p>その下の「たくましく生きる力の育成」では、実は教職員にとっても、それから子供にとっても、一人ひとりがこの社会の中で生きていくためにとても大事な言葉である。</p> <p>また、高洲南小学校のよりよく自己決定するという事について、「子供の迷い、葛藤し、決断する姿、」この少しずつの迷いや葛藤する姿を大切にすることは、学校教育にとって大変重要だと感じる。</p> <p>本校でも何でも成功するわけではなく、失敗したときにどうするか考えようというところを大事にしており、たくましく生きる色々な考え方や取組方があると思っている。この計画では、命を守る、情報管理に対応していくという記載があるが、その色々な困難さをもう少し具体的にこれからやっていけるとよいと思った。</p>
委員	<p>幼児教育を丁寧に生かして、計画の中に記載されたことはすごく大きいこと。</p> <p>また、「授業で人を育てる」に「どの子も安心して表現できる」とある。この安心（アタッチメント）というのは、昔は0歳児に対して使っていたが、不安になる材料はずっとあり大人まで関係することと捉えなければいけない。この不安を安心に変えることができれば、人間として前向きに生きていくきっかけとなるが、そのために必要なのは、周りの人との関りである。この計画の中では、地域の人も含めた多様な主体が連携して、子供を育てると一貫して書かれている。あそこのおじさんに怒られるから、あれをやったら怒られるという不安の中では、学びの意欲は生まれにくい。安心して学びに対して意欲的になるよう多様な主体がサポートすることが重要だと思う。</p> <p>他にも「小規模校の特色を生かした教育の推進」とあるが、様々な教育のスタイルを各学校が持ち「学校で学ぶ」ということを大事にすることはとても重要だと考える。現在ITやAIなど新しい教育が出てきているが、先ほどの田中城の水抜き事例にもあるような自然との関りなど、今までの子育ての中にあっただけものが、人間の脳の発達にはとても大切。こういった地域の特徴が藤枝の教育の特色として育っていくことは、授業で人を育てるところに繋がるのではないかなと思う。</p> <p>また、少子高齢化がとても進んでいる。学生に聞くと、結婚したい人があまりおらずまして子供が欲しいとは言わない。なぜかと聞くと、楽しそうではない、子育てはすごく大変そうだと答える。こういった社会状況の中で重要なのは、色々な立場の意見を教育に反映していくことだと考える。地域の高齢者や、色々な産業の代表者が参加して、この会議で合意を作っていく。人を育てるのは教師とか学校だけではなく、色々な方の意見をどれだけ入れ込んで作っていくかが大切だと思う。</p> <p>さきほど皆さんが言ったように、実際にどうやっていくのかが重要だと思うが、みんな頑張ればよいかなと思っている。</p>
委員	<p>自治会活動の方針の一つに教育があり、これからは人材教育、将来の担い手を育てることが大切だと考えている。</p> <p>目標1「互いを認め思いやり、多様な主体が連携・協働する学びの充実」は非常にありがたいこと。その中でも政策1の施策1「豊かな人間性を育てる道徳教育の推進」では、具体的にはあいさつ運動の推進にさらに力を入れていきたい。</p> <p>24ページの施策4「ふるさとを愛する心の育成」の取組の中に、新規で「⑤子供ふるさと歴史学習推進事業」というのがあるが、私が今、小学校中学校で地域の歴史や地域の特性を教える講師をしていて、非常に反響がよかったので興味を持っていただい</p>

	<p>てよかった。</p> <p>政策2「地域資源でつなぐ学びの深化」の施策1「地域とともにある学校の推進」では、地域で子供たちの成長を支援することが必要で、核となる学校を中心に、住民の皆さんも少しずつそういう価値観を持ってもらえるようになった。子供たちに本当に必要なことは何かを考えながら私たちがバックアップしたいと思う。</p>
委員	<p>資料2のNO,11、「ICT教育の導入など教職員の負担はますます重くなっています。」と、資料1の40ページ、施策3「教職員の能力向上と職場環境の改善」について、ICTの活用による業務負担の軽減や学習指導の支援というように、ICTは便利だが、負担があるという両極端の部分をどう捉えるか。導入した時は操作の要領も悪いが、獲得してしまえば非常に効率は上がってくるのではないかと。子供たちも含めどのように理解しながら進めていくかということが重要。今やっていることがこの先どのようなようになっていくかという意識を持って、この施策を入れているところが非常に重要だと感じる。</p> <p>38ページの施策3「生涯を通じた健康維持の推進」。とりわけ静岡県の子供たちの体力は全国と比べても下げ幅が大きいという状況で、どのようにすれば運動を身近なものに感じてもらえるかというのが課題になる。40ページに「部活動の地域移行を進めていく」とあるが、中学校だけではなく、小学校からというのが重要で、ジュニアユースの世代だけでなく、その前のジュニア、それがうまくいったらキッズの世代にも波及してくる。どうやって運動を子供たちの近くにおいていくか、学校外でもそういう連携が求められるのかなというのを感じた。</p>
委員	<p>委員の皆さんのお話を伺って、本当に学校教育、子供たちの教育に向けて温かく見守ってくださっていて、労働条件のことも気にかけてくださり、本当にありがたいことだと思っている。校長会に戻って、このように地域の色々な立場から考えてくださっているということをお伝えしたい。</p> <p>17ページの「授業で人を育てる」のところ、本当にありがたいと思う。他の委員とともに小中学校で大事にしていくところだということをお伝えしてきたが、この計画の中に大きく記載されることで繋いでいくきっかけになると思っている。資料2のNo,14にある「5つの柱」だが、市の代表として載せてしまってよいかという意見を書いた。高洲南小学校の一例という*を入れて載せてもらったが、昨日、校長会で役員会があり、このページを持って行き相談したところ、市として取り組んでいく大切な考え方としていくのであれば、高洲南小学校の一例という注意書きをなくして、皆のものだと考えればよいのではないかと意見をいただいた。事務局でも検討いただければと思う。</p> <p>ここに書かれている大切なことを一つひとつの学校、学級でそれぞれの子供たちにそれぞれの担任がどう実践していくかということが大事になってくるので、心を引き締めなければいけないと思っている。</p>
委員	<p>17ページについて、これだけのスペースを割いて明文化していただけたことを感謝している。「5つの柱」という言葉は高洲南小が開校以来提唱し、先頭に立ってモデルを示してきているということですが、長い年月の間に藤枝市内の小・中学校に浸透して共通の考え方になっていて、一例ではなく藤枝イズムとも言うべきものだと思う。</p>

	<p>基本計画の中でも藤枝市の学校教育の独自性や普遍性が示されている部分はどこかといった時に、この考え方がベースになればあらゆる施策は他市と大して変わらないものになってしまうのではないかと感じる。この考え方をベースにそれぞれの施策が動いていけば、例えば不登校やいじめといった問題がなくなっていくのではないか。一例という捉え方ではなく藤枝市が発信したい理念として、教育委員会がこれからも続けてくれたら嬉しい。校長会や学校訪問の際に、学校経営や授業を見て指導いただき、これから先もこれが大事に受け継がれていくようにお力添えいただけたらありがたいと思っている。</p>
委員	<p>11 ページの絵はわかりやすく、心が温まる気持ちになる。</p> <p>現在おやこ館は0～2歳の子供が遊ぶ場で、主にしているイベントというのは七夕やひな祭りなどの昔の行事である。音楽も今の子供たちが歌うようなものではなく、童謡等を流している。この夏に思ったことだが、焼津市や島田市の子供さんをはじめ、駅に近いこともあり、静岡や牧之原の方も来てくれて大変ありがたいが、コロナで7組15人という人数制限がかかってしまい、お断りするのが大変だった。他は有料で、藤枝市は無料のため、よく来てくれても、その度に断るといことがとても多く、少しかわいそうだなと思うことが何回もあった。</p>
委員長	<p>委員からの意見は一通り終わったが、教育部長に意見を求めたい。</p>
教育部長	<p>4年ぐらい前、課長時から携わらせていただいている。特に今年度はこの計画作りのために何回もご足労いただき、感謝申し上げます。皆さんの言葉を聞いていると本当に一生懸命熱心に教育のことを心配していただきありがたいと思うのと同時に、我々も身が引き締まる思いで実行していかなくてはと感じている。実行し、その結果が最終的には子供たちの笑顔あふれる教育、笑顔繋ぐ教育に繋がっていくと信じてやっていきたい。今後ともよろしくお願ひしたい。</p>
委員長	<p>今度、藤枝市民大学ができた。私達も企画に参加しているが、募集定員50人のところ、350人の応募があった。積極的に学ぼうという意欲が高い人が多いことが教育に反映しているのではないかと思う。学ぼうとする意欲が町全体にあるのだと感じている。</p>
事務局	<p>皆様から、色々なご意見をいただき、ありがたく思う。事業の拡充の部分、17ページ表記について等を見直し、修正をしていく。</p> <p>今日いただいた意見を反映させ、12月下旬から1か月程度のパブリックコメントを実施する。市民からご意見いただいたものを反映させ、最終は3月に公表というスケジュールで進めていく。</p> <p>次回の第4回子ども未来応援会議は2月の2日に予定している。その時に最終的な素案の結果のご報告をさせていただく。</p> <p>これで、第3回子ども未来応援会議を終了とする。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>